

自己成長力に関する研究*

速水敏彦 西田 保¹⁾ 坂柳恒夫²⁾

問 題

近年、教育界では自己教育力という言葉が盛んに用いられている。北尾(1994)が指摘するように、変動の激しい社会の中で生き抜いていくためには学校時代に学んだものだけでは不十分で、社会にでてからも新しい知識や技術の習得することがいやおうなく求められているが、このような生涯学習の時代にあって自己教育力は重要な意味をもつ言葉である。自分で自分を教育していく姿勢を身につけることがこれからの時代にはより一層必要とされるのである。

さて、我々はここで「自己成長力」という新しい用語を提案する。そして、自己成長力とは「自ら自分自身を伸ばしていこうとする力」と定義する。したがって、上述の自己教育力に近似した意味をもつことはまちがいない。しかしながら、我々があえて自己成長力という新語を用いるのは自己教育力という言葉に対して以下のような問題点を抱くからである。

まず、第1には自己教育力という言葉は学校教育におけるいわゆる知育に主に焦点が当てられているという問題点である。しかし、義務教育で目標にされていることは学科の学習をして知識を増やすことだけであろうか。いうまでもなく、全人格的なものを前提としているのであり、健全な精神や健全な体を形成させていくこともまちがいに教育の目標と考えられる。

そこで、本研究では「能力自己成長力」「性格自己成長力」「体力自己成長力」というように3つの自己成長力を想定する。つまり、3領域を設定する。ただし、ここでいう能力とは計算する能力、記憶する能力、読んで理解する能力、ものごとを考える能力などで学力に近いものを意味している。また、性格とは明るい、親切、几帳面、まじめ、活発、正直などを指す。さらに体力とは

体を健康にする、丈夫な体にする、たくましい体にする、体力をつけることなどを意味している。これは知育に、徳育、体育も加えたものといえるが、現在でも各学校の校訓なり、教育目標を調べてみると言葉は少しずつ異なるがこの3つを謳っているものが多い。その3つの自己成長力は掲げられた教育目標に対応して十分に伸ばされているだろうか。性格や体力を自ら伸ばすことを考えると教育力という言葉よりはむしろ自己成長力という言葉の方がふさわしいと考えた。

第2には自己教育力という言葉は現在、広く知れ渡り、また、多くの教師、研究者が使っている言葉であるが、その定義は複雑、曖昧だと言わざるをえないという問題点である。たとえば、河野(1987)は自己教育力の具体的な意味内容として「学習意欲と意志の形成」「学習の仕方の習得」「生き方の探求」の3点をあげている。これは中央教育審議会・教育内容等小委員会による「審議経過報告」にそうものである。しかし、このような幅広い拡散的な内容をどのようにして測定するのかという段になると困惑の極みである。おそらく、このような複雑で曖昧な定義が、議論だけは華々しくとも実証的研究が伴わないという自己教育力研究の現実を生んできたように思われる。北尾(1988)はSET(Self Education Test)と呼ばれる自己教育力指導検査を作成しているが、その内容は次のようである。まず、領域として学習、性格、生活の3領域があげられ、学習では、問題をとらえる力、自ら考える力、学び方、自己を評価する力の4特性が、性格領域では集中力、計画性、自主性の3特性が、生活領域では生活体験、自律生活、将来の生き方の3特性があげられている。そして、それぞれの特性は先の中教審の3観点の1つないし2つを含むものだとされている。しかし、これは自己教育力という概念が測定というレベルでいかに定義しにくいものかを物語っているようにも思える。

それ故、実証的研究に繋ぐためには構成概念の明確化、簡潔化が必要であり、自己成長力という言葉は「意欲と意志の形成」という動機づけの側面に限定した言葉として使用することにする。そして、我々は自己成長力に3

1) 名古屋大学総合保健体育科学センター

2) 愛知教育大学

* 本研究は日本生命財団の研究助成による「青少年の成長に関与する日本の教育力の学際的総合的研究」(総括責任者 祖父江孝男)の一部である。

自己成長力に関する研究

つの階層を仮定する。第1は関心の階層であり、まずもって自分を成長させることに関心をもつことが必要と考えた。第2は意欲の階層であり、自己成長力を伸ばしたい気持ちである。さらに第3は意欲を具体化する行動、目標や計画を立てたり、努力したり、自己評価したりを意味するもので遂行力と呼ばれるものである。

本研究は研究Ⅰと研究Ⅱの2つからなり、研究Ⅰでは自己成長力の質問紙を作成し、信頼性や妥当性を検討することを目的とする。そして、研究Ⅱではその質問紙を小学生から大学生までに適用し、自己成長力の発達の変化を検討することを目的とする。しかし、自己成長力にどのような発達の変化がみられるかについて予想を立てるだけの十分な手がかりはなく、探索的な色彩が強いが、青年期の揺らぎの中で、あるいは受験制度という社会の

中で自己成長力が上昇の一途をたどるといった性質のものではないように思われる。

研究Ⅰ

目的

自己成長力検査の信頼性および妥当性を検討する。信頼性は内的整合性と安定性の観点から、妥当性については3領域×3階層の下位尺度間の関連性および基準関連妥当性について検討する。

方法

調査対象者

対象者は、愛知県内の小学校5年生から大学4年生までの男女である。以後の分析において対象となった数

表1 調査対象者数

	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	大学	計
男子	187	192	202	220	208	230	229	216	220	1,904
女子	192	190	187	248	218	233	224	246	258	1,996

表2 各項目と下位尺度得点との相関係数

(N=3,900)

	項目番号	能力自己成長力	性格自己成長力	体力自己成長力
関心	1	.617	.667	.678
	4	.607	.626	.654
	7	.703	.687	.745
	*10	.646	.677	.678
	*13	.579	.621	.627
	*16	.566	.618	.576
	19	.527	.619	.504
意欲	22	.647	.700	.718
	*2	.609	.678	.711
	*5	.648	.652	.698
	*8	.654	.703	.731
	11	.743	.777	.815
	14	.679	.722	.784
	17	.696	.759	.783
遂行力	20	.699	.760	.791
	23	.721	.738	.767
	3	.707	.685	.790
	6	.685	.681	.764
	9	.747	.729	.801
	12	.616	.634	.696
	15	.614	.643	.778
*18	.495	.388	.463	
*21	.662	.639	.642	
*24	.689	.644	.710	

(注1) *は、逆転項目を示す。

(注2) 相関係数は、すべて $p < .001$ で有意である。

は、表1に示すように、男子1,904名、女子1,996名の計3,900名であった。学校数は、小学校と中学校が各2校、高校が3校、大学が4校であった。大学生は1年から4年まですべてを含んでいたが、相対的には1年生が一番多く含まれていた。

また、他に再検査による信頼性を検討するために小学5年生1クラス35名、および妥当性（教師評定を妥当性基準とした）を検討するために小学5、6年生4クラス、142名が対象となった。

調査の内容および実施方法

青少年の自己成長力を測定するために「自己成長力検査」を作成した（付表1を参照）。検査の構成は能力、性格、体力の3領域の自己成長力が仮定されており、それぞれ24項目からなっている。そして24項目のうち、それぞれ8項目ずつが関心、意欲、遂行力を測定するものになっている。関心、意欲、遂行力の順で3項目おきに項目が配置された。各項目に対する応答は、「よくあてはまる」から「ほとんどあてはまらない」までの4段階であった。逆転項目は表2のように各領域で9項目ずつ含まれていた。調査は、各学校に調査の実施を依頼し、担任教師を通してクラス単位に実施した

また、調査の最後には付表1のように自分の能力、性格、体力について5段階で評定するように求め、妥当性の1つの基準とした。他に両親が能力、性格、体力のうちどれが伸びることを期待しているかや将来の職業について考えているか否かも問われたが、これらの質問の結果については本研究では扱わない。

再検査信頼性の検討にあたっては3週間の間隔において2度検査が実施された。また、妥当性基準の1つである教師評定に関しては担任教師に子どもの3領域の自己成長力を3段階で評定してもらった。

結果と考察

1 尺度の信頼性の検討

(1) 尺度の内的整合性

最初に、構成された自己成長力検査（尺度）の内的整合性（等質性）を検討することにする。表2は、各下位尺度得点と尺度に含まれる項目得点との相関係数を示したものである。

これを見ると、全体的には正の有意に高い相関係数が得られたが、3領域共通に遂行力の各尺度の1項目のみ、相関係数が.50を下回っていた。それは項目番号18であり、「能力を伸ばすためのやり方がよくわからない」「性格をよくするためのやり方がよくわからない」「体力を高めるためのやり方がよくわからない」というものであった。そこでこの項目を削除し、Cronbachの α 係数を算出したところ、能力自己成長力の関心尺度が、.761とやや低いものの、他の尺度の α 係数はすべて.800以上であり、十分に満足できる水準にあった（表4）。そこで、以下の分析では各領域とも関心・意欲については8項目、

表3 下位尺度の再検査信頼性（安定性）
(N=35)

		安定性係数
能力自己成長力	関心	.613 ***
	意欲	.483 **
	遂行力	.762 ***
性格自己成長力	関心	.743 ***
	意欲	.729 ***
	遂行力	.601 ***
体力自己成長力	関心	.778 ***
	意欲	.866 ***
	遂行力	.832 ***

** ……p<.01, *** ……p<.001

表4 自己成長力下位尺度の平均得点、標準偏差および下位尺度間の相関係数（N=3,900）

	M	S.D	A ₁	A ₂	A ₃	B ₁	B ₂	B ₃	C ₁	C ₂	C ₃
A ₁ 能力（関心）	2.94	.54	(.761)								
A ₂ 能力（意欲）	3.24	.57	.754	(.835)							
A ₃ 能力（遂行力）	2.31	.61	.515	.477	(.813)						
B ₁ 性格（関心）	2.93	.62	.586	.479	.260	(.807)					
B ₂ 性格（意欲）	3.19	.64	.510	.553	.251	.805	(.870)				
B ₃ 性格（遂行力）	2.22	.62	.348	.255	.465	.583	.513	(.806)			
C ₁ 体力（関心）	2.85	.61	.516	.485	.375	.479	.449	.368	(.802)		
C ₂ 体力（意欲）	3.17	.68	.408	.519	.312	.362	.457	.257	.805	(.896)	
C ₃ 体力（遂行力）	2.46	.74	.252	.278	.478	.177	.196	.394	.660	.617	(.871)

（注1）括弧内の数値は、標準化されたCronbachの α 係数を示している。

（注2）相関係数は、すべてp<.001で有意である。

遂行力については7項目で下位尺度を構成することにした。以上の結果から、自己成長力を測定する下位尺度は、内的整合性の点で一貫した内容を備えており、信頼性の高い尺度あると言える。

(2) 再検査による尺度の信頼性

表3は、各下位尺度の安定性係数を示したものである。

能力自己成長力尺度では.483～.762, 性格自己成長力尺度では.601～.743, 体力自己成長力尺度では.778～.866, であり、能力自己成長力の意欲が例外的に低いが、その他の尺度はおおむね、高い相関値を示している。これにより、自己成長力検査の再検査信頼性(安定性)の高さが確認されたと言える。

2. 妥当性の検討

(1) 尺度間の相関

概念設定の適切さを検討するために、自己成長力下位尺度間の相関係数を算出した。結果は、表4に示したとおりである。

この表からも明らかなように、自己成長力の領域間では中程度の相関がみられ、同一領域内階層性間ではそれより高い相関がみられた。とりわけ、関心と意欲との結びつきが強くなっている。領域間ではまったく独立ではなく、それぞれの自己成長力が相互に関連していることが理解できる。また、関心、意欲、遂行力の平均値をみると、どの領域でも意欲>関心>遂行力の順になっており、関心がまず満たされ、その次に意欲、さらに両者を満たした者の中で遂行力が実行されるという3段階の階層と考えるのはやや無理があるかもしれない。

(2) 自己評価との関連

青少年自身による能力・性格・体力についての自己評価と自己成長力検査との相関係数を求めたところ、表5

表5 下位尺度得点と自己評価との関連 (N=3,900)

		安定性係数
能力自己成長力	関心	.134 ***
	意欲	.113 ***
	遂行力	.166 ***
性格自己成長力	関心	.010
	意欲	.031
	遂行力	.106 ***
体力自己成長力	関心	.249 ***
	意欲	.247 ***
	遂行力	.397 ***

*** ……p<.001

表6 下位尺度得点と教師の評価との関連 (N=142)

		安定性係数
能力自己成長力	関心	.279 ***
	意欲	.233 ***
	遂行力	.192 ***
性格自己成長力	関心	.187 *
	意欲	.244 **
	遂行力	.187 *
体力自己成長力	関心	.371 ***
	意欲	.318 ***
	遂行力	.326 ***

* ……p<.05, ** ……p<.01, *** ……p<.001

に示す結果が得られた。

体力自己成長力尺度と体力の自己評価との間には、.221～.247のゆるやかな相関がみられたものの、他の尺度との間には、明確な関連が認められなかった。特に性格自己成長力の関心、意欲では有意な相関関係が全くみられなかった。いうまでもなく能力、性格、体力そのものとそれを伸ばそうという動機づけの側面は同一ではないが、それにしても予想外に低い数値であった。

(3) 教師の評価との関連

教師の観察に基づく自己成長力の評価と、自己成長力検査の結果との関連について、検討した結果は表6のとおりである。

有意な正の関連が認められ、先の自己評価との相関よりは高いものの、全体的には、ゆるやかな相関が示されている。また、相対的に体力自己成長力の相関が一番高く、次いで能力自己成長力、一番低いのが性格自己成長力であるので先の(2)の結果と一致する。この低さについては、自己成長力検査項目内容自体が吟味・検討されなければならないが、一方では、教師自身が自己成長力という概念・特性についてまだ十分に評価できる観点をもたないことも起因していると推察される。

研究II

目的

研究IIの目的は、先の研究で尺度構成された「自己成長力検査」を用いて、自己成長力は加齢に伴ってどのように変化していくのか、性差が認められるのかなどについて分析し、青少年の自己成長力の特徴を明らかにすることである。

方 法

調査対象者

研究1と同様の小学生から大学生までの3,900名であった。

調査内容

付表1のとおりである。

結果と考察

ここでは、自己成長力得点の特徴を明らかにするために、能力、性格、体力に関する自己成長力得点（1項目当りの得点）の平均値および標準偏差値を算出し、それらの値の変化や差異を中心に検討する。

1. 能力自己成長力について

表7は、能力に関する自己成長力得点の平均値および標準偏差値を、3つの階層性（関心、意欲、遂行力）および学年に分けて、男女別に示したものである。また、それらの平均値をプロットしたのが図1である。

それによると、各学年とも意欲の平均値が最も高く、続いて関心、遂行力となっている。関心と意欲は、男女

とも学年が進むにつれてやや高くなる傾向があるが、遂行力は高校生になるとやや低くなる傾向がみられている。

そこで、まず最初に、学年ごとに階層性(3)×性(2)の最初の要因について繰り返しのある2要因分散分析を行い、各学年における階層性の違いおよび性差を検定した。得られた分散分析と多重比較の結果を要約して示したのが表8である。その表によると、①全学年を通して、男女とも、意欲が最も高く、関心、遂行力の順になっており、それら間にはいずれも5%水準で有意な差が認められた。また、中学2年、中学3年、高校3年、大学生の意欲や関心においては、女子の方が男子よりも有意に高い得点を示した。

次に、3つのそれぞれの階層別、男女別に7水準の学年差、1要因の分散分析を行い、学年による自己成長力得点の変化を検定した。表9には、それらの分散分析と多重比較の結果が示されている。得られた結果を要約的に記述すると、②男女とも、関心や意欲は、小学校から中学校にかけて学年が進むにつれて徐々に高くなるが、

表7 能力自己成長力得点の平均値および標準偏差値
(男子)

	関心		意欲		遂行力	
	M	S.D	M	S.D	M	S.D
小学5年生	2.770	0.541	3.131	0.625	2.392	0.633
小学6年生	2.677	0.554	3.049	0.607	2.299	0.662
中学1年生	2.810	0.531	3.251	0.553	2.378	0.560
中学2年生	2.857	0.495	3.169	0.546	2.388	0.558
中学3年生	2.989	0.514	3.318	0.559	2.434	0.603
高校1年生	2.977	0.539	3.232	0.598	2.264	0.621
高校2年生	2.906	0.540	3.188	0.558	2.136	0.613
高校3年生	2.931	0.551	3.127	0.619	2.243	0.613
大学生	3.217	0.461	3.377	0.486	2.387	0.599

(女子)

	関心		意欲		遂行力	
	M	S.D	M	S.D	M	S.D
小学5年生	2.761	0.517	3.103	0.570	2.433	0.622
小学6年生	2.736	0.520	3.024	0.590	2.375	0.640
中学1年生	2.829	0.507	3.192	0.535	2.375	0.547
中学2年生	2.955	0.532	3.296	0.587	2.381	0.629
中学3年生	3.039	0.494	3.431	0.506	2.373	0.577
高校1年生	2.952	0.521	3.193	0.556	2.127	0.515
高校2年生	2.974	0.536	3.218	0.549	2.114	0.597
高校3年生	2.985	0.501	3.255	0.524	2.160	0.580
大学生	3.384	0.390	3.566	0.392	2.447	0.618

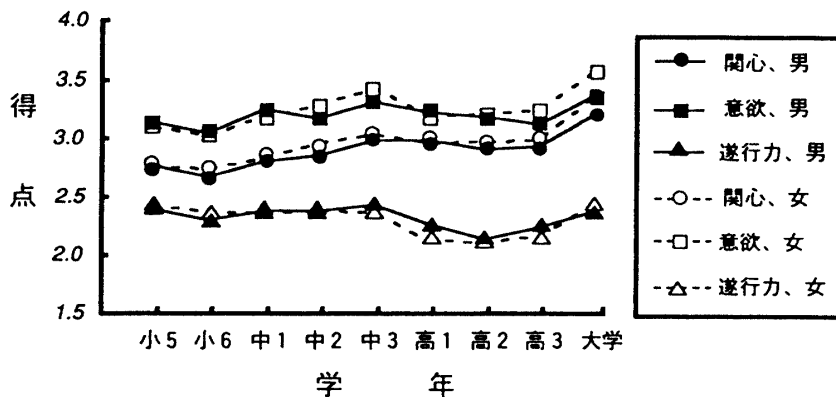


図1 能力自己成長力得点の発達の推移

自己成長力に関する研究

表8 能力自己成長力得点の2要因分散分析の結果

	主効果	F 値	多重比較 (p<.05)
小学5年生	性	0.00	男女とも 意欲>関心>遂行力
	階層性 交互作用	362.27** 0.91	
小学6年生	性	0.47	男女とも 意欲>関心>遂行力
	階層性 交互作用	383.33** 2.27	
中学1年生	性	0.09	男女とも 意欲>関心>遂行力
	階層性 交互作用	552.78** 1.28	
中学2年生	性	2.64	男女とも 意欲>関心>遂行力 関心, 意欲……女子>男子
	階層性 交互作用	700.09** 4.65*	
中学3年生	性	0.59	男女とも 意欲>関心>遂行力 意欲……女子>男子
	階層性 交互作用	788.29** 6.30*	
高校1年生	性	2.37	男女とも 意欲>関心>遂行力
	階層性 交互作用	925.91** 3.04	
高校2年生	性	0.31	男女とも 意欲>関心>遂行力
	階層性 交互作用	1,025.69** 1.62	
高校3年生	性	0.54	男女とも 意欲>関心>遂行力 意欲……女子>男子
	階層性 交互作用	938.64** 10.04**	
大学生	性	13.95**	男女とも 意欲>関心>遂行力 関心, 意欲……女子>男子
	階層性 交互作用	1,229.45** 4.56*	

* p<.05 ** p<.01

表9 能力自己成長力得点の1要因分散分析の結果

〈男子〉

	F 値	多重比較 (p<.05)
関心	18.113**	大学生>小5, 小6, 中1, 中2, 中3, 高1, 高2, 高3 中3, 高1>小5, 小6, 中1 中2, 高2, 高3>小6
意欲	6.526**	大学生>小5, 小6, 中2, 高2, 高3 中3>小5, 小6, 高3 中1, 高1>小6
遂行力	5.448**	中3>高2, 高3 小5, 中1, 中2, 大学生>高2

**p<.01

〈女子〉

	F 値	多重比較 (p<.05)
関心	33.749**	大学生>小5, 小6, 中1, 中2, 中3, 高1, 高2, 高3 中3, 高3>小5, 小6, 中1 中2, 高1, 高2>小5, 小6
意欲	21.219**	大学生>小5, 小6, 中1, 中2, 高1, 高2, 高3 中3>小5, 小6, 高3 中1, 高1>小6 高1, 高2, 高3>小6
遂行力	11.888**	小5, 小6, 中1, 中2, 中3, 大学生>高1, 高2, 高3

**p<.01

高校生になると一旦停滞し、その後再び高くなるという結果を示し、③遂行力は、全体的に顕著な変化が見られず、高校生で有意に低い得点を示すのが特徴的であった。

2. 性格自己成長力について

表10は性格自己成長力得点の平均値および標準偏差値を、図2はそれらの平均値を図示したものである。いずれも、3つの階層性(関心, 意欲, 遂行力), 学年, 男女別に分けて示されている。また, 表11および表12には,

表10 性格自己成長力得点の平均値および標準偏差値

	関 心		意 欲		遂 行 力		〈女 子〉						
	M	S.D	M	S.D	M	S.D	関 心		意 欲		遂 行 力		
	M	S.D	M	S.D	M	S.D	M	S.D	M	S.D	M	S.D	
小学5年生	2.676	0.583	2.974	0.663	2.193	0.611	小学5年生	2.896	0.562	3.240	0.561	2.387	0.702
小学6年生	2.572	0.582	2.919	0.653	2.052	0.574	小学6年生	2.917	0.560	3.198	0.583	2.232	0.602
中学1年生	2.662	0.560	3.066	0.620	2.160	0.555	中学1年生	2.926	0.583	3.282	0.582	2.332	0.624
中学2年生	2.722	0.607	3.028	0.636	2.247	0.618	中学2年生	3.156	0.565	3.476	0.505	2.471	0.680
中学3年生	2.836	0.625	3.186	0.642	2.276	0.624	中学3年生	3.147	0.575	3.493	0.547	2.374	0.643
高校1年生	2.803	0.639	3.045	0.670	2.123	0.622	高校1年生	3.037	0.563	3.252	0.635	2.162	0.582
高校2年生	2.813	0.639	3.039	0.670	2.033	0.589	高校2年生	3.114	0.556	3.290	0.538	2.164	0.595
高校3年生	2.745	0.643	2.839	0.704	2.061	0.561	高校3年生	2.981	0.584	3.186	0.586	2.029	0.552
大 学 生	3.048	0.608	3.175	0.642	2.230	0.613	大 学 生	3.470	0.437	3.632	0.423	2.453	0.566

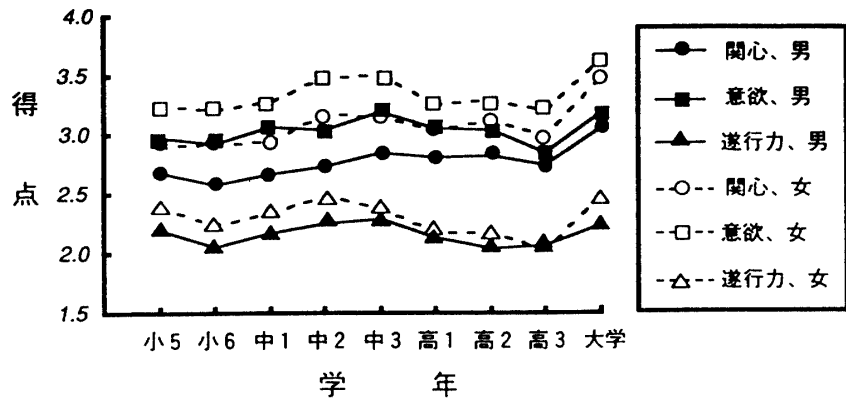


図2 性格自己成長力得点の発達の推移

表11 性格自己成長力得点の2要因分散分析の結果

	主 効 果	F 値	多重比較 (p<.05)
小学5年生	性 階 層 性 交互作用	16.66** 492.58** 0.95	関心, 意欲, 遂行力とも 女子>男子 男女とも 意欲>関心>遂行力
小学6年生	性 階 層 性 交互作用	25.86** 640.86** 5.10**	関心, 意欲, 遂行力とも 女子>男子 男女とも 意欲>関心>遂行力
中学1年生	性 階 層 性 交互作用	18.08** 616.97** 1.48	関心, 意欲, 遂行力とも 女子>男子 男女とも 意欲>関心>遂行力
中学2年生	性 階 層 性 交互作用	60.63** 622.68** 11.96**	関心, 意欲, 遂行力とも 女子>男子 男女とも 意欲>関心>遂行力
中学3年生	性 階 層 性 交互作用	21.49** 843.80** 11.74**	関心, 意欲……女子>男子 男女とも 意欲>関心>遂行力
高校1年生	性 階 層 性 交互作用	10.27** 912.51** 9.20**	関心, 意欲……女子>男子 男女とも 意欲>関心>遂行力
高校2年生	性 階 層 性 交互作用	22.14** 1,026.87** 6.09**	関心, 意欲, 遂行力とも 女子>男子 男女とも 意欲>関心>遂行力
高校3年生	性 階 層 性 交互作用	14.31** 871.50** 30.50**	関心, 意欲……女子>男子 男女とも 意欲>関心>遂行力
大 学 生	性 階 層 性 交互作用	69.78** 1,453.12** 17.36**	関心, 意欲, 遂行力とも 女子>男子 男女とも 意欲>関心>遂行力

* p<.05 **p<.01

自己成長力に関する研究

表12 性格自己成長力得点の1要因分散分析の結果

〈男子〉		
	F 値	多重比較 (p<.05)
関心	10.300**	大学生>小5, 小6, 中1, 中2, 中3, 高1, 高2, 高3 中3, 高1, 高2>小6
意欲	6.037**	中3>小5, 小6, 高3 大学生>小6, 高3 中1, 高1, 高2>高3
遂行力	4.893**	中2, 中3>小6, 高2, 高3 大学生>高2

**p<.01

〈女子〉		
	F 値	多重比較 (p<.05)
関心	24.770**	大学生>小5, 小6, 中1, 中2, 中3, 高1, 高2, 高3 中2, 中3>小5, 小6, 中1, 高3 高2>小5, 小6, 中1
意欲	18.973**	大学生>小5, 小6, 中1, 中2, 高1, 高2, 高3 中2, 中3>小5, 小6, 中1, 高1, 高2, 高3
遂行力	14.308**	中2, 大学生>小6, 高1, 高2, 高3 小5, 小6>高1, 高2, 高3 小6, 中1>高3

**p<.01

能力自己成長力得点の検定と同様の方法で行った分散分析と多重比較の結果が示されている。

これらの分析によると、次のようにいえる。①全学年を通して、男女とも、意欲が最も高い得点を示し、以下順に、関心、遂行力となっていた。この結果は、能力自己成長力と同様であった。②全学年に共通して言えることであるが、関心、意欲、遂行力のほとんどにおいて、女子の方が男子よりも有意に高い得点を示した。③学年による変化の特徴としては、関心、意欲、遂行力とも、小学5年生から中学3年生にかけて高くなり、それ以降高校3年生までは停滞あるいは低下を示し、大学になると再び高くなった。この傾向は、男女にほぼ共通したものであった。

3. 体力自己成長力について

表13および図3には、体力自己成長力得点が示されている。また、表14および表15には、前述した方法で行った分散分析と多重比較の結果が示されている。

その結果、能力および性格の自己成長力の分析と同様に、①全学年を通して、男女とも、意欲が最も高い得点を示し、以下順に関心、遂行力となっていた。また、②全学年とも、関心、意欲、遂行力のほとんどにおいて、男子の方が女子よりも有意に高い得点を示した。これは、性格自己成長力とは逆の結果であった。学年による変化としては、③男女とも、関心および意欲は、小学5年生から中学3年生までは停滞あるいはやや上昇し、その後、高校3年生にかけて低下し、大学になると再び高くなるという結果が得られた。ところが、④遂行力については、

表13 体力自己成長力得点の平均値および標準偏差値

〈男子〉							〈女子〉						
	関心		意欲		遂行力			関心		意欲		遂行力	
	M	S.D	M	S.D	M	S.D		M	S.D	M	S.D	M	S.D
小学5年生	2.910	0.638	3.247	0.654	2.664	0.754	小学5年生	2.810	0.592	3.135	0.675	2.501	0.694
小学6年生	2.844	0.674	3.230	0.656	2.635	0.745	小学6年生	2.705	0.641	3.057	0.652	2.430	0.694
中学1年生	2.908	0.544	3.376	0.598	2.742	0.704	中学1年生	2.814	0.599	3.186	0.673	2.514	0.684
中学2年生	2.962	0.569	3.365	0.593	2.776	0.713	中学2年生	2.906	0.663	3.239	0.699	2.469	0.748
中学3年生	3.001	0.588	3.348	0.628	2.744	0.697	中学3年生	2.817	0.659	3.196	0.694	2.414	0.719
高校1年生	2.959	0.601	3.324	0.635	2.678	0.739	高校1年生	2.699	0.559	2.970	0.668	2.182	0.601
高校2年生	2.910	0.581	3.228	0.658	2.538	0.752	高校2年生	2.694	0.601	2.921	0.709	2.199	0.691
高校3年生	2.790	0.624	3.003	0.716	2.449	0.704	高校3年生	2.522	0.570	2.769	0.683	1.979	0.630
大学生	3.099	0.511	3.335	0.622	2.468	0.705	大学生	3.019	0.545	3.207	0.649	2.183	0.706

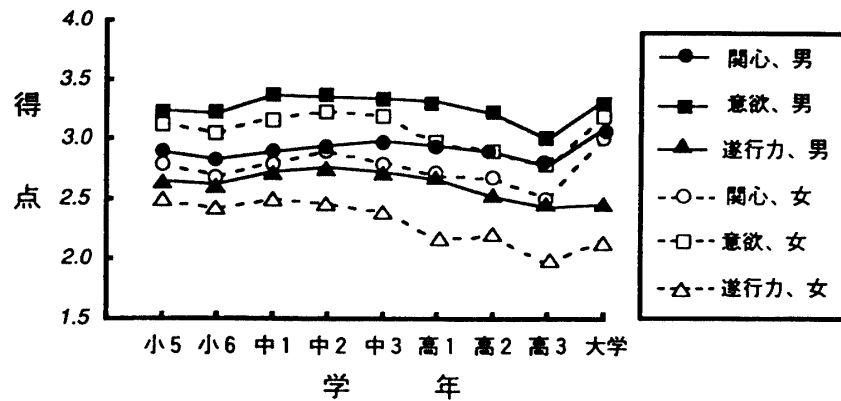


図3 体力自己成長力得点の発達の推移

表14 体力自己成長力得点の2要因分散分析の結果

	主効果	F値	多重比較 (p<.05)
小学5年生	性 階層性 交互作用	4.13* 263.30** 0.78	関心, 意欲, 遂行力とも 男子>女子 男女とも 意欲>関心>遂行力
小学6年生	性 階層性 交互作用	7.63** 274.14** 0.79	関心, 意欲, 遂行力とも 男子>女子 男女とも 意欲>関心>遂行力
中学1年生	性 階層性 交互作用	9.15** 296.27** 1.48	意欲, 遂行力……男子>女子 男女とも 意欲>関心>遂行力
中学2年生	性 階層性 交互作用	8.75** 381.90** 13.89**	意欲, 遂行力……男子>女子 男女とも 意欲>関心>遂行力
中学3年生	性 階層性 交互作用	14.83** 381.97** 7.13**	関心, 意欲, 遂行力とも 男子>女子 男女とも 意欲>関心>遂行力
高校1年生	性 階層性 交互作用	50.26** 443.11** 12.19**	関心, 意欲, 遂行力とも 男子>女子 男女とも 意欲>関心>遂行力
高校2年生	性 階層性 交互作用	26.66** 401.27** 3.20*	関心, 意欲, 遂行力とも 男子>女子 男女とも 意欲>関心>遂行力
高校3年生	性 階層性 交互作用	36.20** 377.88** 13.17**	関心, 意欲, 遂行力とも 男子>女子 男女とも 意欲>関心>遂行力
大学生	性 階層性 交互作用	10.65** 840.91** 9.89**	意欲, 遂行力……男子>女子 男女とも 意欲>関心>遂行力

*p<.05 **p<.01

男女とも、中学生あたりから大学生にかけて徐々に低くなる傾向が認められた。

さて、青少年の自己成長力について種々分析してきたが、その結果いくつかの点が明らかになったと考えられる。特徴的な点を中心に以下にまとめてみることにする。

まず最初に注目されるのは、全学年を通して、男女とも自己成長への意欲が最も高く、次に関心、遂行力の順になっていたことである。これは、能力、性格、体力への自己成長力において共通に認められた結果であった。つまり、小学5年生から大学生までにわたる青少年全体の自己成長力は、成長目標に向かって実際に努力しているといった遂行力よりも、ある成長目標に対して主体的

に責任を持って取り組もうとする意欲の方が高いということである。一般的に言えば、意欲や関心は高く持てても、それらを実際の行動として実行していくことは困難のようである。ここでは、そのような一般的傾向が、自己成長力の結果にも反映されているのではないかと推察される。また、青少年の自己成長力の育成といった観点からすれば、本研究の結果は、意欲や関心から実際の行動へと導くステップ（教師の働きかけなど）が重要であることを示唆しているものと考えられる。

次に、性格自己成長力は、全学年を通して女子が男子よりも高かったのに対して、体力自己成長力は、逆に男子の方が女子よりも高いという結果が得られた。一般的

自己成長力に関する研究

表15 体力自己成長力得点の1要因分散分析の結果

〈男子〉		
	F 値	多重比較 (p<.05)
関心	4.853**	大学生>小5, 小6, 中1, 高2, 高3 中3>高3
意欲	7.095**	小5, 小6, 中1, 中2, 中3, 高1, 高2, 大学生>高3
遂行力	6.059**	中2>高2, 高3, 大学生 中1, 中3>高3, 大学生 高1>高3
**p<.01		
〈女子〉		
	F 値	多重比較 (p<.05)
関心	13.783**	大学生>小5, 小6, 中1, 中3, 高1, 高2, 高3 中2>小6, 高1, 高2, 高3 小5, 小6, 中1, 中3, 高1>高3
意欲	13.094**	中1, 中2, 中3, 大学生>高1, 高2, 高3 小5>高2, 高3 小6, 高1>高3
遂行力	16.925**	小5, 小6, 中1, 中2, 中3>高1, 高2, 高3, 大学生 高1, 高2, 大学生>高3
**p<.01		

に言えば、女子は性格のよい子に、男子は体のたくましい子にといった社会的通念がある。つまり、女子は、体を自ら鍛えるというよりも性格のよい子になることが女性らしくみられると考えているのに対して、男子の場合には、体を鍛えたり体力をつけてたくましい体にするのが、いわゆる男らしさを象徴することになると考えているので、男女ともそれぞれの方面での自己成長力が高くなったのではないかと推察される。なお、体力への自己成長力において男子が高かったという結果は、西田・西田(1990)の体育における学習意欲や藤原・下山(1969)の成功動機(運動場面)における男女差の結果と一致するものであった。

自己成長力の学年による変化をみると、能力、性格、体力の自己成長力にはほぼ共通する特徴として、それぞれの自己成長への関心や意欲は、小学生から中学生にかけてやや上昇する傾向を示し、高校生でやや低下し、大学生になると再び上昇する傾向が認められた。そして、これらの結果は、男女に共通するものであった。また、それぞれの自己成長に対する遂行力は、男女とも全学年を通して顕著な変化が認められなかったが、高校生では低下する傾向がみられた。すなわち、これらの結果は、青少年の自己成長力が高校生あたりになると低下することを指摘するものである。なぜ、高校生で自己成長力が低下するのだろうか。現在のところ十分な考察はできないが、人生の中で最も多感な時期にいる高校生は、勉学、恋愛、将来に向けての人生設計など様々な点で思い悩む時期であり、そのような精神的特徴が影響しているのではないかと考えられる。

討 論

本研究では、まず、自己成長力という新しい心理学的概念を提案し、能力、性格、体力という3領域を設定し、しかも関心、意欲、遂行力という3階層に分けて概念化した。それぞれを測定する項目を収集、整理し、自己成長力検査を作成しようとした。研究Ⅰでは信頼性および妥当性の検討がなされた。信頼性に関しては内的整合性という意味でも安定性という意味でもほぼ満足する結果がえられた。因子的妥当性は確認していないが、3領域ごとの自己成長力はある程度弁別しうるものであるといえる。しかし、相互に独立というのではなく、かなり密接な関係をもっていることも事実である。また、関心、意欲、遂行力は3段階の階層というよりもむしろ2段階と考えた方がよいような結果もえられたが、これを明確にするためにはさらに詳しい分析が必要であろう。さらに、自己評価や教師の評定結果を妥当性基準にした検討も行ったが、われわれが測定しようとしたのは内面的な動機づけの側面であるのに対して、妥当性基準と考えたものは結果として行動上みられる能力、性格、体力そのものであるとの理由で相関が低かったのかもしれない。その推察を裏付けるように最も表出されやすい体力自己成長力は相対的には最高の妥当性が得られ、逆に最も表出されにくい性格自己成長力は最低の妥当性が示された。今後、別の妥当性基準を考慮して再検討することも必要であろう。

研究Ⅱは青少年の自己成長力の特徴について検討したものであり、「自己成長力検査」に基づいて全体的な傾

向を分析した。発達的变化の全体的傾向として高校生で自己成長力の停滞ないしは低下が認められた。青年期中期はやや自己嫌悪的な時期で、総じてあまり前向きにものを考えることができないのかもしれない。しかし、被験者のサンプリングの問題も考えられる。ここで対象としたのはいずれも普通高校であったが、職業高校では異なるかもしれないし、学力レベルによる違いが存在するかもしれない。また、青年期後期にあたる人として大学生だけを対象にして自己成長力がかなり高いという結果を出しているが、これは大学生に限定された特徴かもしれない。この年齢の総人口の半数以上を占める大学生以外の勤労青年等の自己成長力に関しては高校生に比較して減少することも考えられる。いずれにしろ、この時期、青年層が様々な次元で分化するので青年をいくつかに分類して検討する必要があるだろう。

最近には様々な分野で男女の境界が薄れてきているといわれているが、男子は体力自己成長力を、女子は性格自己成長力をより重視する傾向が明確にみられた。これはおそらく男子青年、女子青年に対する社会的期待が今でも異なるためであろう。しかし、性差は能力自己成長力と性格自己成長力に関しては特に関心・意欲の側面で差が顕著であり、遂行力の差はやや小さいことは注目に値する。つまり、行動的な意味での性差はやはり小さくなっているのかもしれない。

しかしながら、ここで得られた主な結果は、データの数も多く、青少年の自己成長力の実態を把握するための基礎的資料として十分活用できるものと考えられる。とりわけ、性格自己成長力、体力自己成長力という領域に関しては学校教育の重要な側面であるにもかかわらず、

注目されてこなかったのが今後の発展が期待できよう。学校での青少年の動機づけの問題は学習、勉強だけでなく、体力の増進、望ましい性格の育成ということにも向けられているはずである。その実態を把握するだけでも意味のあることである。

しかし、未開拓な研究分野であるだけに残された問題も数多い。教育的に最も大切な問題はそれぞれの自己成長力がどのような要因によって影響され規定されているのか、自己成長力の育成に、誰の、どのような働きかけがより重要なのかといったことであろう。育成の問題には学校の要因だけでなく家庭の要因も検討が必要になる。さらに、この自己成長力のあり方が青少年の適応にどのように影響するかも興味深い問題である。

引用文献

- 藤原喜悦・下山 剛 1969 学習動機診断検査(MMAT) 金子書房
北尾倫彦 1988 <新テスト紹介>教研式SET自己教育力指導検査 指導と評価 第34巻1号 日本教育評価研究会 31-34
北尾倫彦編 1994 自己教育の心理学 有斐閣
河野重男 1987 教育改革と自己成長力の育成 北尾倫彦編 自己教育力を考える 図書文化 2-11
西田 保・西田紀江 1990 体育における学習意欲の発達の推移 総合保健体育科学, 13, 47-54.

(1994年9月14日 受稿)

ABSTRACT

A Study of Self-Growth Motivation

Toshihiko HAYAMIZU, Tamotsu NISHIDA, and Tsuneo SAKAYANAGI

A new construct, “self-growth motivation” was introduced into this study to explore psychological development of modern adolescents. The term means students’ will to develop their dispositions. As a similar word, ability educating self (jikokyoikuryoku in Japanese) was used often in educational circles, however, it seems to be applied only to learning disposition and to be defined as having complicated internal structures. We expected adolescents to grow not only leaning ability but also personality and body through education. Moreover, we needed a simple construct to be measured more easily. Thus we made up the newly psychological construct instead of ability educating self. Self-growth motivation was assumed to consist of nine components : three domains (mental ability, character and physical fitness) × three levels (interest, desire and effort). Concerning the levels, it was supposed that first of all, students have interest in self-growth, then they desire to grow themselves and finally they make actual effort to achieve self-growth.

In order to make our new scale for self-growth motivation which includes nine subscales based on this definition, a number of items were gathered, then seventy two items were selected. In Study 1, both reliability and validity of the scale were examined. On the basis of the result of item analyses, only one item measuring effort level was excluded in any domains because of its heterogeneity. After the item was excluded, the internal consistencies of all subscales were high enough. Also, the reliability based on test-retest was supported. On the other hand, the validity was not verified sufficiently. Especially the subscale scores for character were lowly correlated with teachers’ ratings for students’ characters.

The purpose of Study 2 was to make clear developmental changes and sex differences in self-growth motivation. The scale was administered to 3900 students including elementary school children, junior and senior high school students and university students. Main results were as follows : 1. In any domains, desire was the highest whereas effort was the lowest ; 2. Self-growth motivation tended to increase from elementary school ages to junior high school ages, however, it decreased in senior high school ages, then it enlarged again in university ages ; 3. As sex differences, the female students showed higher self-growth motivation for character than did the male students. In contrast, the male students displayed higher self-growth motivation for physical fitness than did the female students.

付表 1

自己成長に関する調査

小学校
中 学
高 校
大 学

1. 学 校 名 _____ 県 _____ 大 学 _____

2. 学年・組・番号 _____ 年 _____ 組 _____ 番

3. 性 _____ 男・女 _____

4. 記入年月日 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

<お願い>

この調査は、皆さんが、自分の能力、性格、体力づくりなどについてどのように考えているかを調べ、皆さんの個性を伸ばすために役立てようとするものです。学校の成績とは関係ありませんので、あなたの思ったとおり正直に答えてください。調査のまとめは統計的におこないますので、皆さんにご迷惑をかけることはありません。読めなかったり意味のわからないときは、だまって手をあげ先生にたずねてください。

自己成長力研究プロジェクト

ここは記入しなくて結構です

1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12

<検査1> あなたは、自分の能力（例えば、計算する能力、記憶する能力、読んで理解する能力、ものごとを考える能力など）を伸ばすことについて、どのように思っていますか。以下の項目を読んで、あなたの気持ちや考え方にぴったりあてはまる数字を選び、その数字を○でかこんでください。

	ほとんどの	あてはまらない	あまりはまらない	ややあてはまる	よくあてはてる
	↓	↓	↓	↓	↓
1. 自分はどのような能力がすぐれているか、よく考える	1	2	3	4	13
2. 特に自分の能力を伸ばしたいとは思わない	1	2	3	4	
3. 自分の能力を伸ばすために、積極的に努力している	1	2	3	4	15
4. 能力を伸ばすことは、自分の将来にとって非常に大切である	1	2	3	4	
5. 自分の能力のすぐれている点を、さらに伸ばしたいとは思わない	1	2	3	4	
6. 自分の能力を伸ばすために、自分で計画を立てている	1	2	3	4	
7. 自分の能力を伸ばすことに、興味がある	1	2	3	4	

自己成長力に関する研究

8. 自分の能力を, 自分から進んで伸ばしたいとは思わない	1	2	3	4	20
9. 自分なりの目標を立てて, 自分の能力を伸ばそうとがんばっている	1	2	3	4	
10. 自分の能力を伸ばすことは, 考えたことがない	1	2	3	4	
11. 自分の能力を, 自分で今よりもっと伸ばしていきたい	1	2	3	4	
12. 自分の能力が伸びたかどうか, ときどき確かめている	1	2	3	4	
13. 努力して, 今の自分の能力を伸ばす必要はないと思う	1	2	3	4	25
14. 人に負けないくらいの能力を, 身につけていきたい	1	2	3	4	
15. 自分の能力を伸ばすために, 積極的 ^す にいろいろ経験するようにしている	1	2	3	4	
16. 自分にどのような能力が欠けているか, 考えたことがない	1	2	3	4	
17. 将来のために, いろいろな能力を身につけていきたい	1	2	3	4	
18. 能力を伸ばすためのやり方が, よくわからない	1	2	3	4	30
19. 自分の能力について, 親や友人などのまわりの人たちにたずねたい	1	2	3	4	
20. 自分の能力の劣 ^{おと} っている点を, 少しでも高めていきたい	1	2	3	4	
21. 自分の能力を伸ばすための目標や計画を, 立てたことがない	1	2	3	4	
22. 自分の能力について, もっと知りたい	1	2	3	4	
23. 能力を伸ばすために, 自分から積極的に取り組んでいきたい	1	2	3	4	35
24. 自分の能力を伸ばしたいが, そのための努力は特にしていない	1	2	3	4	

＜検査2＞ あなたは, 自分の性格(例えば、明るい、親切、きちょうめん、まじめ、活発、社交的、正直など)をよりよくすることについて, どのように思っていますか。以下の項目を読んで, あなたの気持ちや考え方にぴったりあてはまる数字を選び, その数字を○でかこんでください。

	ほとんど	あてはまらない	あまり	あてはまらない	ややあてはまる	よくあてはてる	
	↓	↓	↓	↓			
1. 自分はどのような性格がすぐれているか, よく考える	1	2	3	4	37		
2. 特に自分の性格をよくしたいとは思わない	1	2	3	4			
3. 自分の性格をよくするために, 積極的に努力している	1	2	3	4			
4. 性格をよくすることは, 自分の将来にとって非常に大切である	1	2	3	4	40		
5. 自分の性格のよい点を, さらに伸ばしたいとは思わない	1	2	3	4			
6. 自分の性格をよくするために, 自分で計画を立てている	1	2	3	4			
7. 自分の性格をよくすることに, 興味がある	1	2	3	4			
8. 自分の性格を, 自分から進んでよくしたいとは思わない	1	2	3	4			
9. 自分なりの目標を立てて, 自分の性格をよくしよう ^す とがんばっている	1	2	3	4	45		
10. 自分の性格をよくすることは, 考えたことがない	1	2	3	4			
11. 自分の性格を, 自分で今よりもっとよくしていきたい	1	2	3	4			
12. 自分の性格がよくなったかどうか, ときどき確かめている	1	2	3	4			
13. 努力して, 今の自分の性格をよくする必要はないと思う	1	2	3	4			
14. 人に負けないくらいの性格を, 身につけていきたい	1	2	3	4	50		
15. 自分の性格をよくするために, 積極的 ^す にいろいろ経験するようにしている	1	2	3	4			

16. 自分にどのような性格がよくないのか、考えたことがない	1	2	3	4	
17. 将来のために、よい性格を身につけていきたい	1	2	3	4	
18. 性格をよくするためのやり方が、よくわからない	1	2	3	4	
19. 自分の性格について、親や友人などのまわりの人たちにたずねたい	1	2	3	4	55
20. 自分の性格のよくない点を、少しでもよくしていきたい	1	2	3	4	
21. 自分の性格をよくするための目標や計画を、立てたことがない	1	2	3	4	
22. 自分の性格について、もっと知りたい	1	2	3	4	
23. 性格をよくするために、自分から積極的に取り組んでいきたい	1	2	3	4	
24. 自分の性格をよくしたいが、そのための努力は特にしていない	1	2	3	4	60

＜検査3＞ あなたは、自分の体力づくり（例えば、体を健康にする、じょうぶな体にする、たくましい体にする、体力をつけることなど）について、どのように思っていますか。以下の項目を読んで、あなたの気持ちや考え方にぴったりあてはまる数字を選び、その数字を○でかこんでください。

	ほとんど	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	よくあてはてる	
	↓	↓	↓	↓	↓	
1. 自分はどのような体力がすぐれているか、よく考える	1	2	3	4	1	
2. 特に自分の体力を高めたいとは思わない	1	2	3	4		
3. 自分の体力を高めるために、積極的に努力している	1	2	3	4		
4. 体力を高めることは、自分の将来にとって非常に大切である	1	2	3	4		
5. 自分の体力のすぐれている点を、さらに伸ばしたいとは思わない	1	2	3	4	5	
6. 自分の体力を高めるために、自分で計画を立てている	1	2	3	4		
7. 自分の体力を高めることに、興味がある	1	2	3	4		
8. 自分の体力を、自分から進んで高めたいとは思わない	1	2	3	4		
9. 自分なりの目標を立てて、自分の体力を高めようとがんばっている	1	2	3	4		
10. 自分の体力を高めることは、考えたことがない	1	2	3	4	10	
11. 自分の体力を、自分で今よりもっと高めていきたい	1	2	3	4		
12. 自分の体力が伸びたかどうか、ときどき確かめている	1	2	3	4		
13. 努力して、今の自分の体力を高める必要はないと思う	1	2	3	4		
14. 人に負けないくらいの体力を、身につけていきたい	1	2	3	4		
15. 自分の体力を高めるために、 積極的にいろいろな運動するようにしている	1	2	3	4	15	
16. 自分にどのような体力が劣っているか、考えたことがない	1	2	3	4		
17. 将来のために、いろいろな体力を身につけていきたい	1	2	3	4		
18. 体力を高めるためのやり方が、よくわからない	1	2	3	4		
19. 自分の体力について、親や友人などのまわりの人たちにたずねたい	1	2	3	4		
20. 自分の体力の劣っている点を、少しでも高めていきたい	1	2	3	4	20	
21. 自分の体力を高めるための目標や計画を、立てたことがない	1	2	3	4		
22. 自分の体力について、もっと知りたい	1	2	3	4		
23. 体力を高めるために、自分から積極的に取り組んでいきたい	1	2	3	4		
24. 自分の体力を高めたいが、そのための努力は特にしていない	1	2	3	4	24	

自己成長力に関する研究

＜検査4＞ 以下の項目を読んで、あなたの気持ちや考え方を教えてください。

1. あなたの能力（計算する能力、記憶する能力、読んで理解する能力、ものごとを考える能力など）、性格（明るい、親切、きちょうめん、まじめ、活発、正直など）、体力（強い体、じょうぶな体、たくましい体など）についてたずねます。
- (1) あなたは、自分の能力、性格、体力についてどのように思っていますか。1から5のあてはまる番号に○をつけて下さい。

	おとっている ↓ 1	やや おとっている ↓ 2	普 通 ↓ 3	やや すぐれている ↓ 4	すぐれている ↓ 5	
能 力	1	2	3	4	5	25
性 格	1	2	3	4	5	26
能 力	1	2	3	4	5	27

- (2) あなたの両親や先生は、あなたの能力、性格、体力のうち、どれが特に伸びることを期待していると思いますか。より強く期待していると思う順に1から3の番号をつけてください。

	能 力	性 格	体 力	
父親は →	() 28	() 29	()	30
母親は →	() 31	() 32	()	33
先生は →	() 34	() 35	()	36

2. あなたは、将来の職業（仕事）のことを考えていますか。あてはまる番号に○をつけて下さい。

- 職業のことは考えたことがない 1
- 考えたことはあるが、はっきり決まっていない 2 37
- つきたい職業を決めている 3

* 3を選んだ人は、その職業の名前を具体的に書いてください。

()

2 80

＜ 調査は、これで終わりです。ご協力どうもありがとうございました ＞